

2024年5月31日

2024年3月期 決算説明会

麻生フォームクリート株式会社

<https://www.asofoam.co.jp/>



I . 2024年3月期 決算概要

2024年3月期業績ハイライト

(単位：百万円)

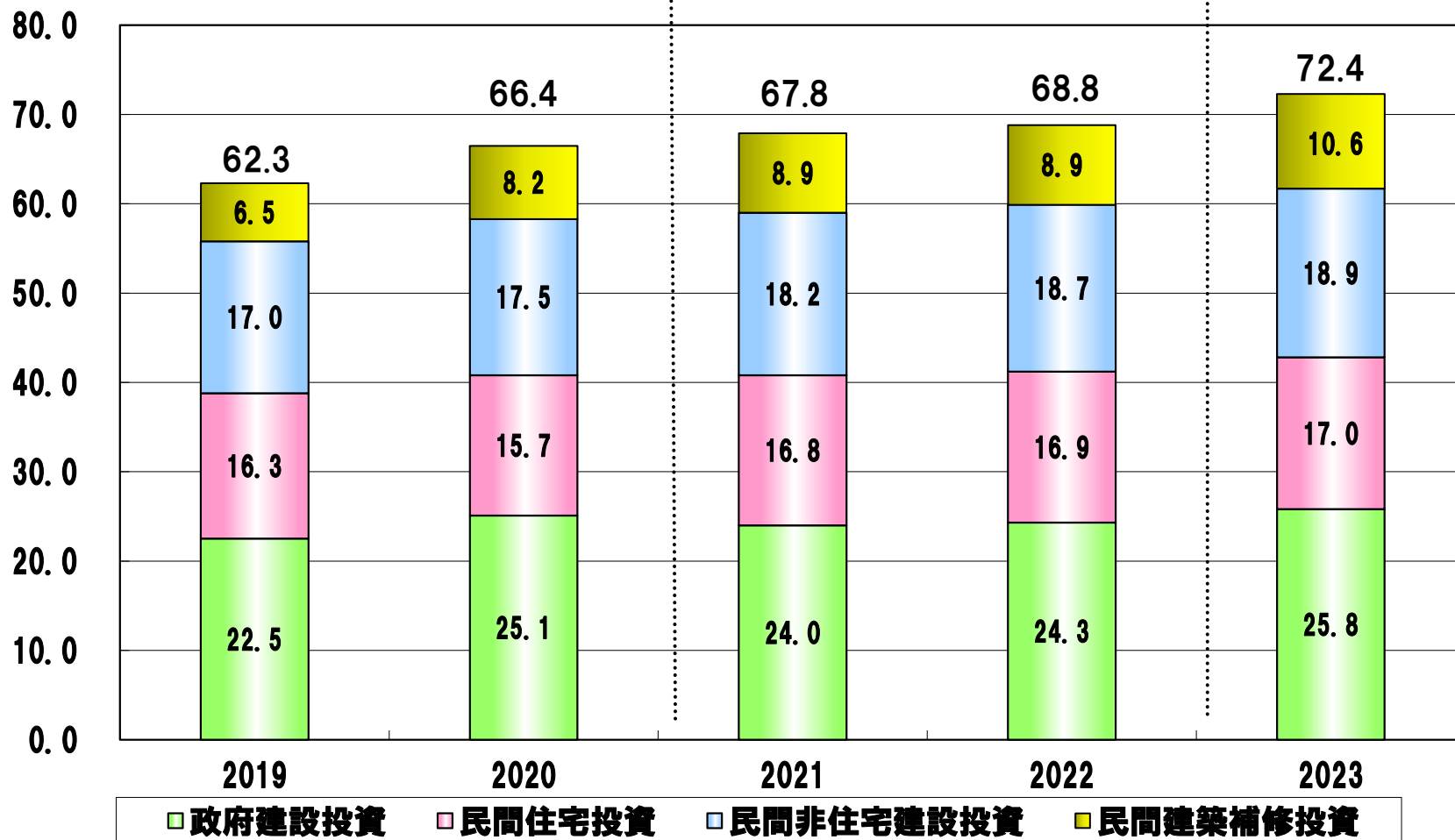
	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期		対計画 増減額	対前期 増減額
	実績	実績	実績	実績	計画	実績		
受注高	4,139	4,091	4,134	3,706	4,000	3,393	△607	△313
売上高	4,030	4,623	3,594	3,572	4,300	3,139	△1,161	△432
営業損益	64	215	△73	△24	100	△182	△282	△157
経常損益	69	223	△65	△17	100	△174	△274	△157
当期純損益	39	153	△52	△17	70	△386	△456	△368

■名目建設投資の推移（年度）

（単位：兆円）

←（見込み）→

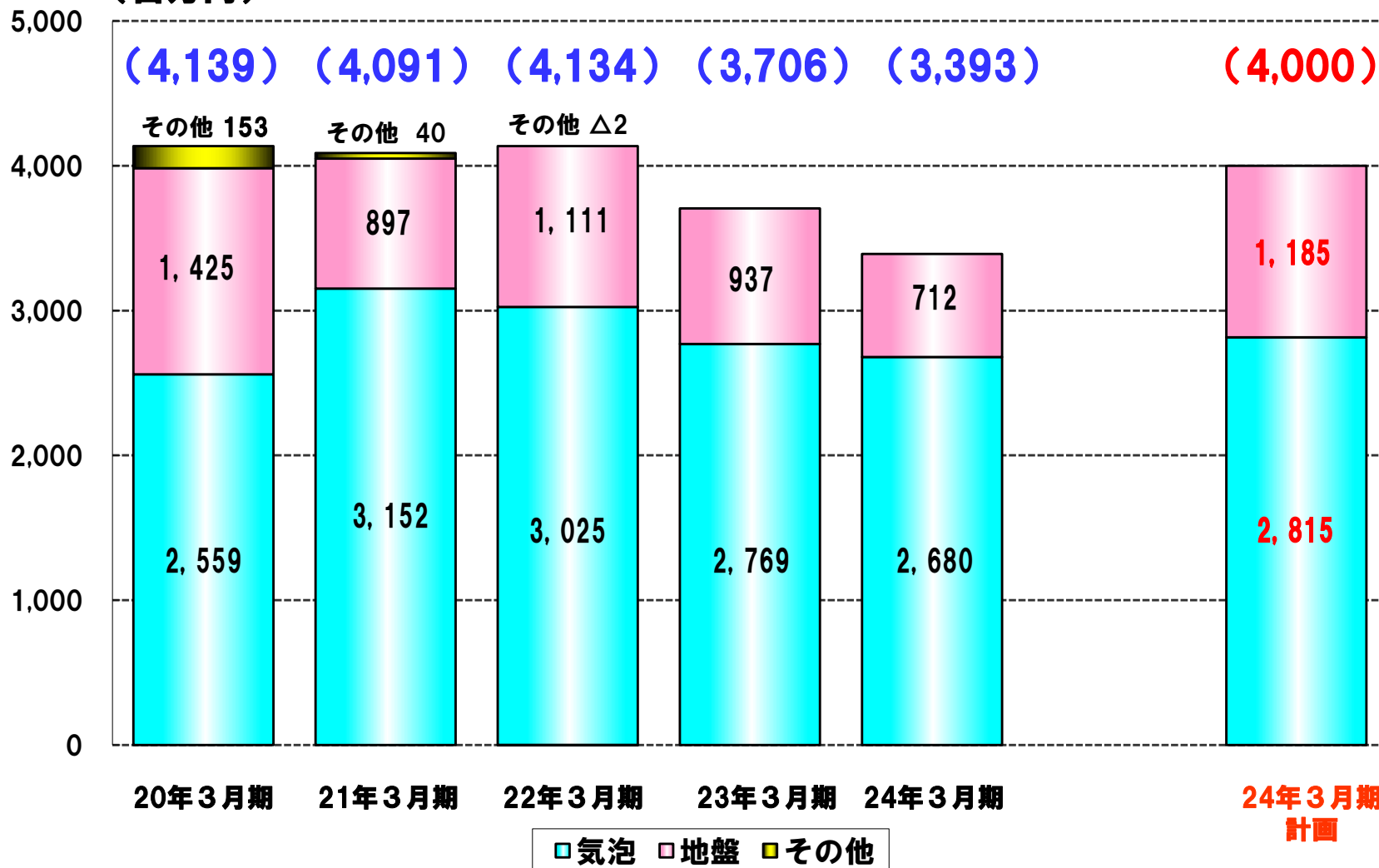
←（見通し）→



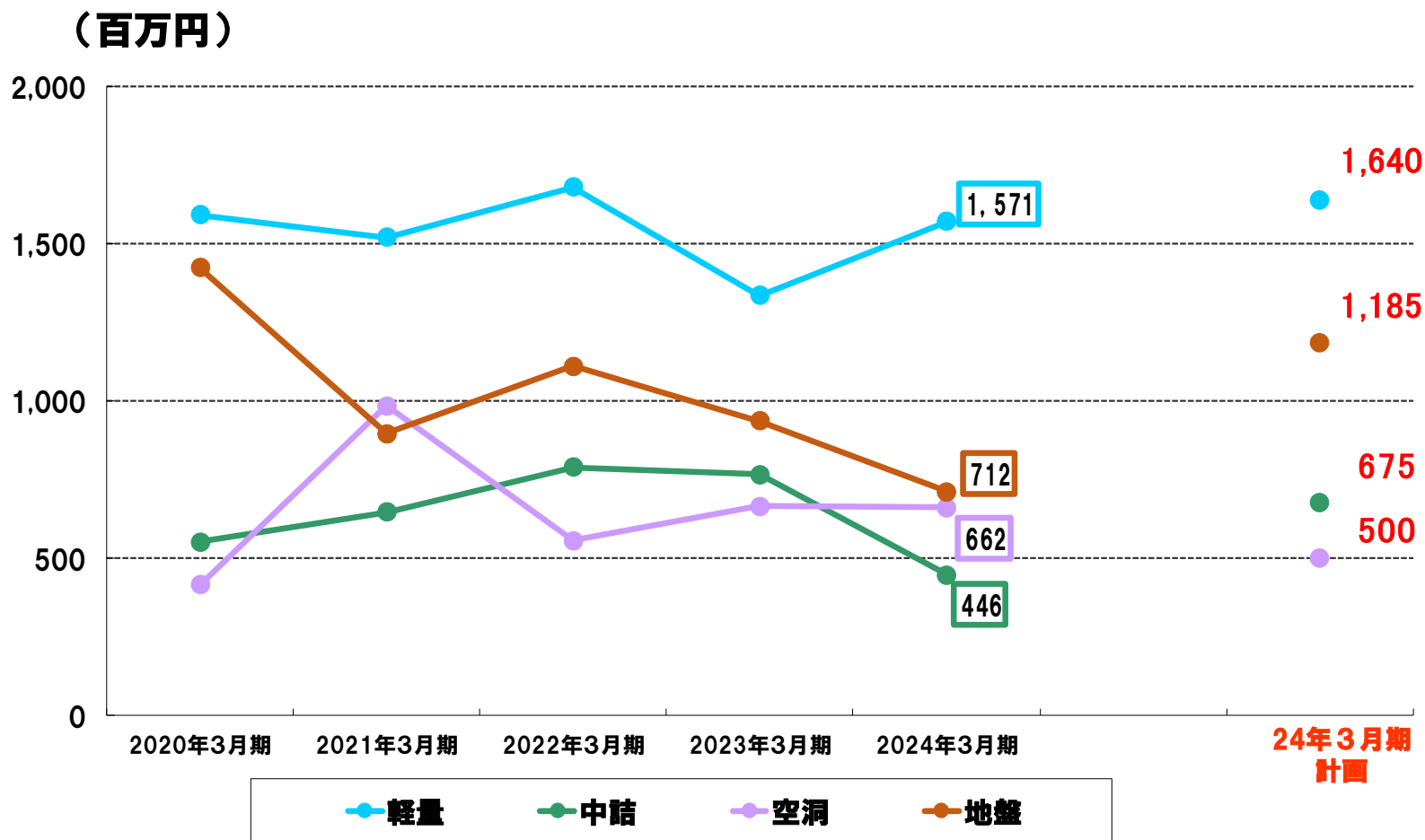
参考：（財）建設経済研究所
建設経済モデルによる建設投資
2024年4月10日発表より

受 注 高

(百万円)

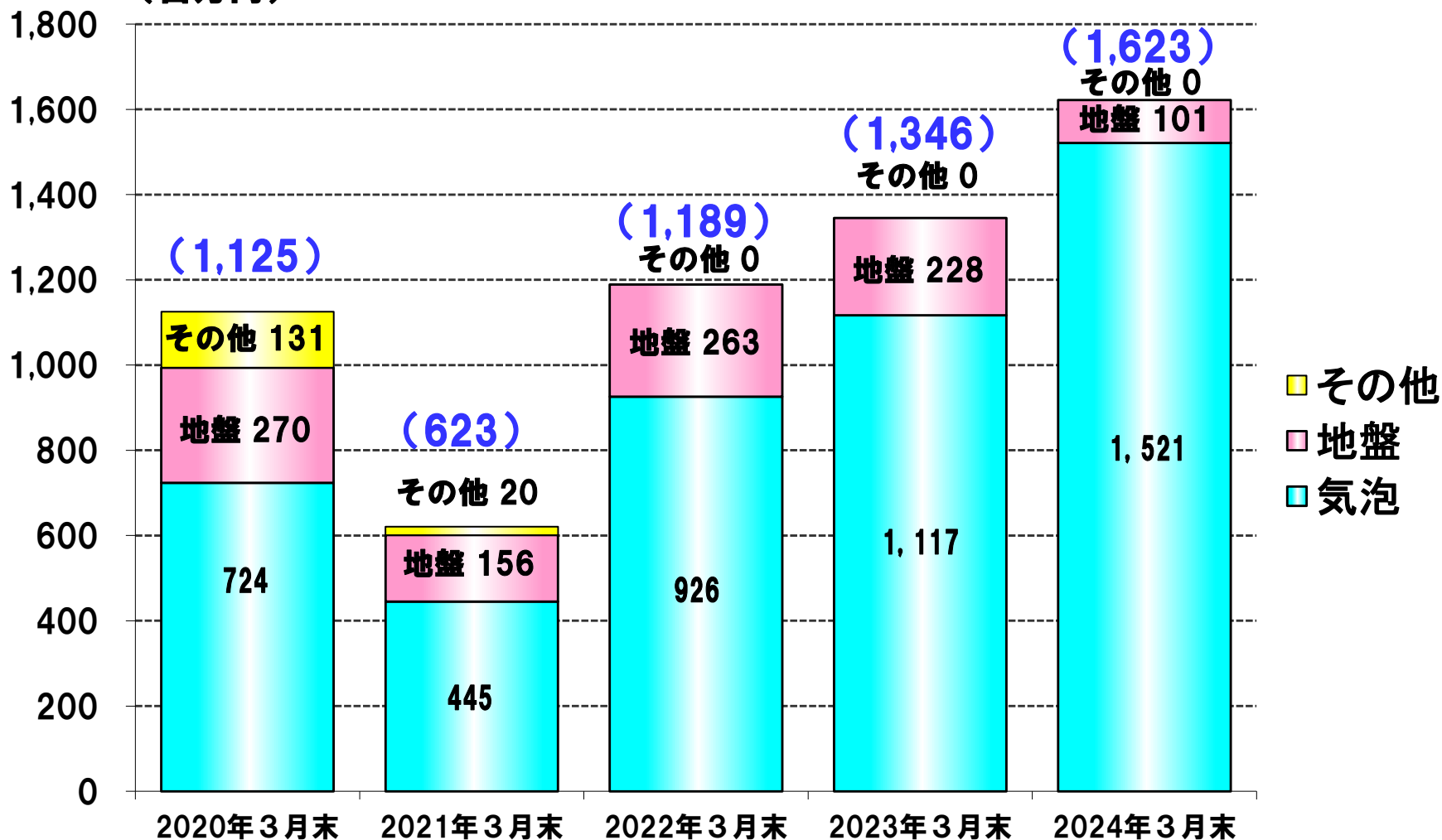


受注高推移



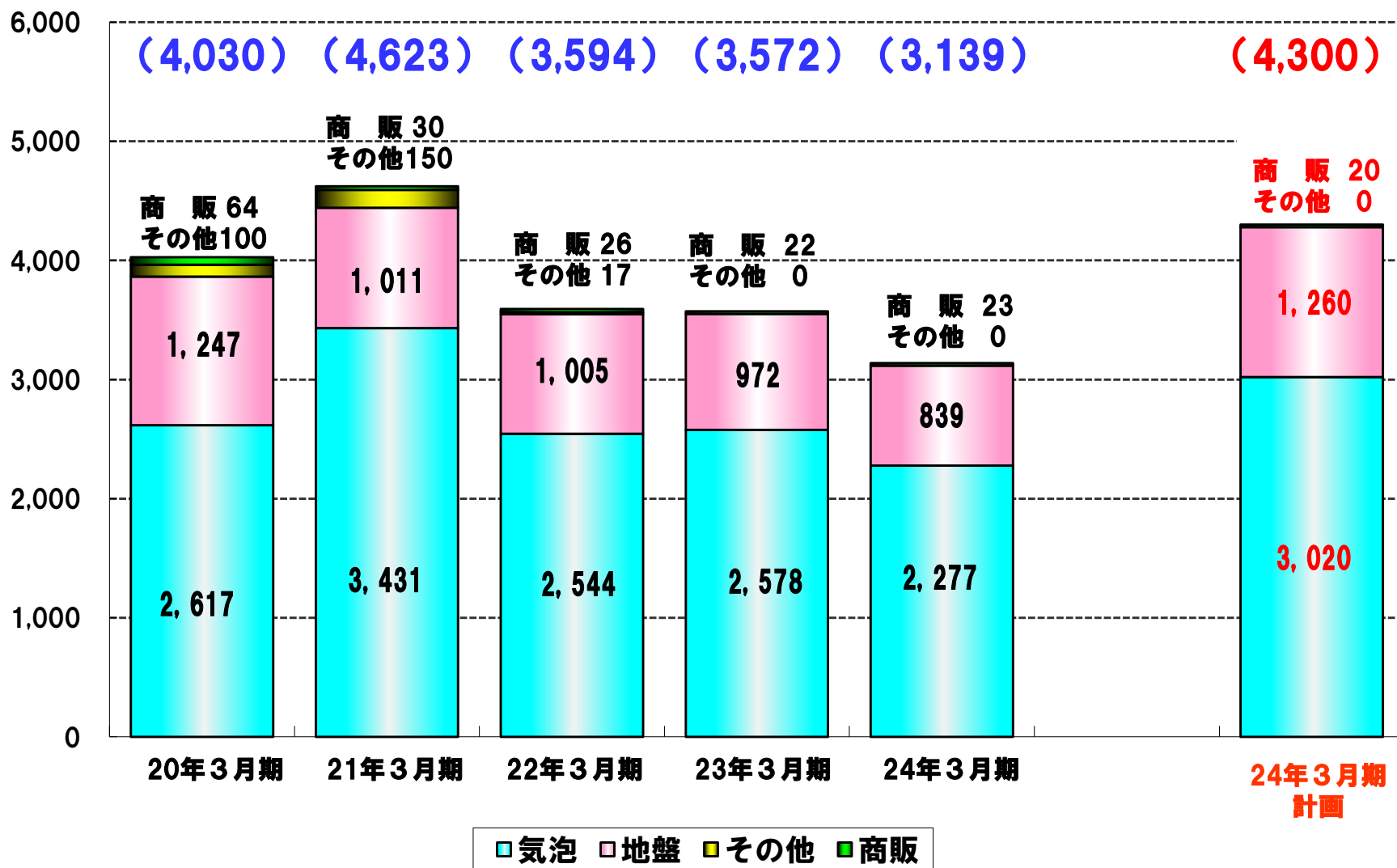
繰越工事高

(百万円)



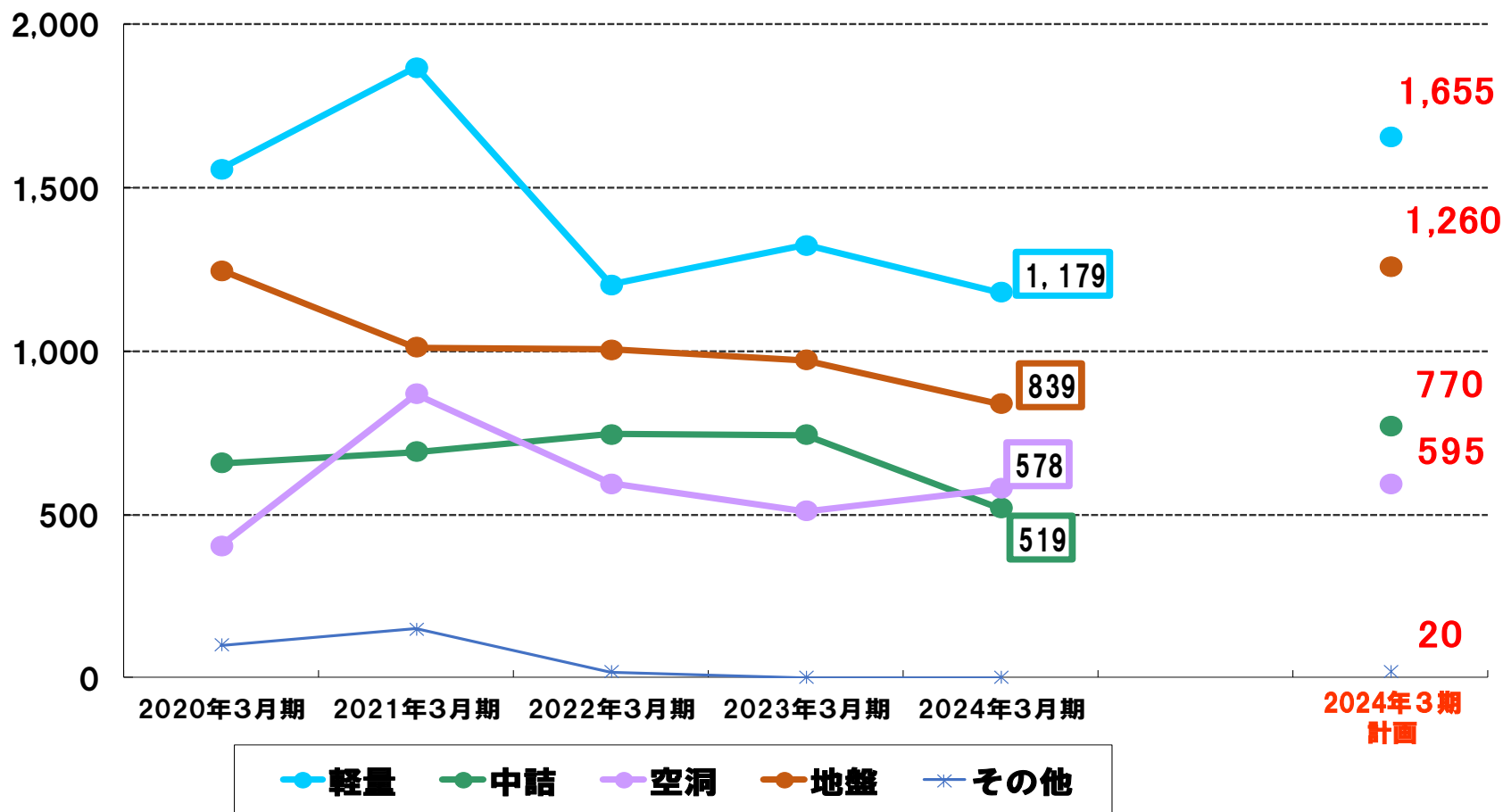
売上高

(百万円)



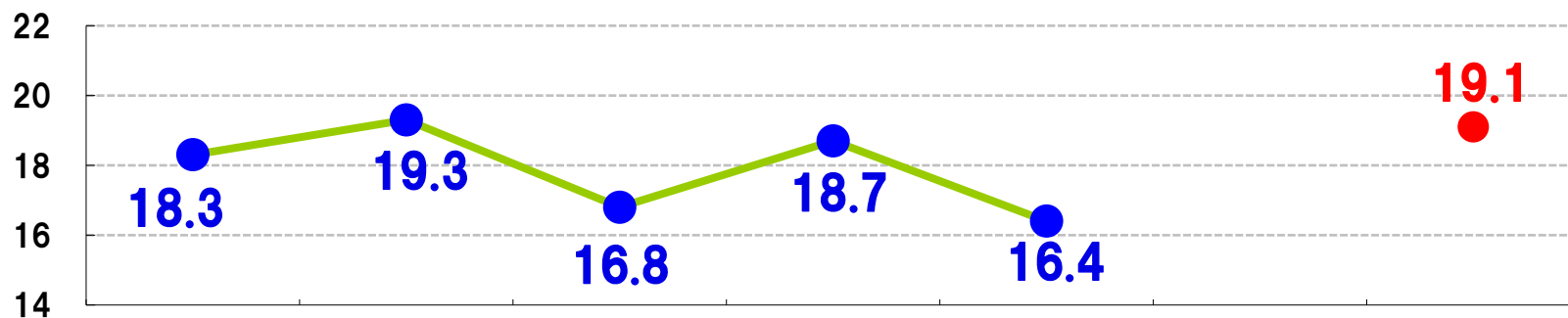
完成工事高推移

(百万円)

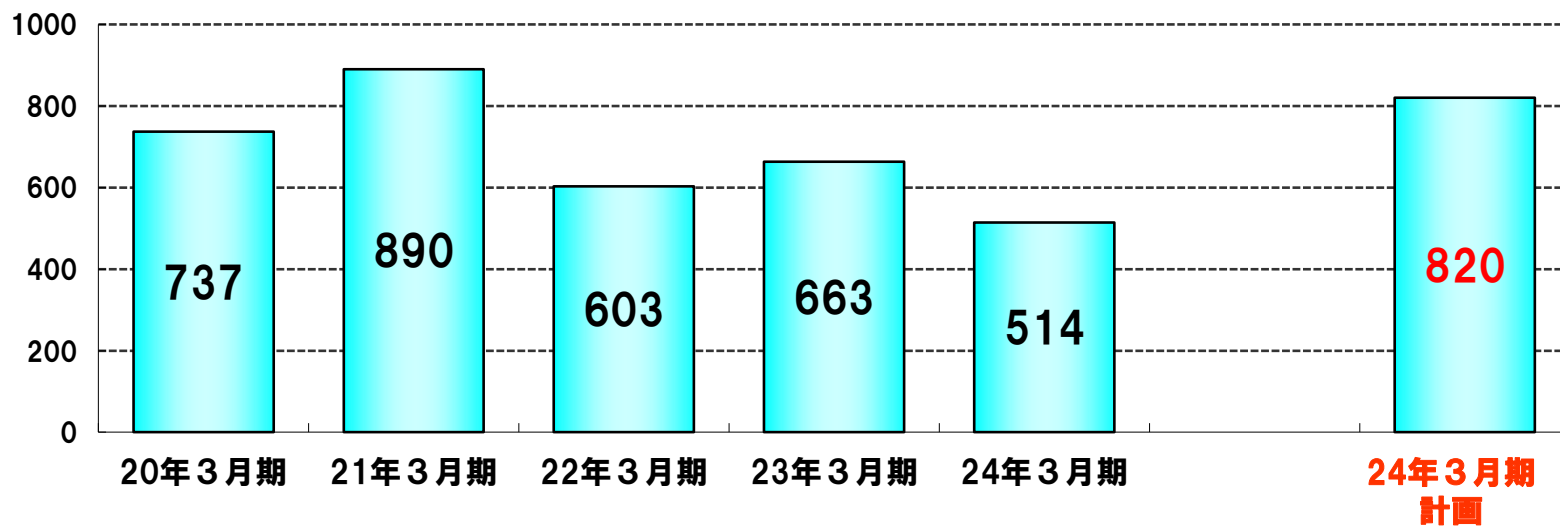


売上総利益

■売上総利益率（％）

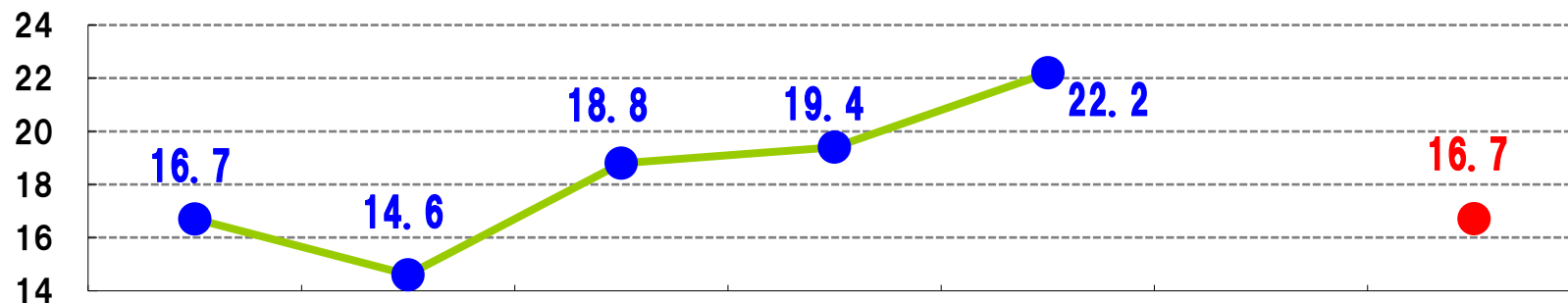


■売上総利益（百万円）

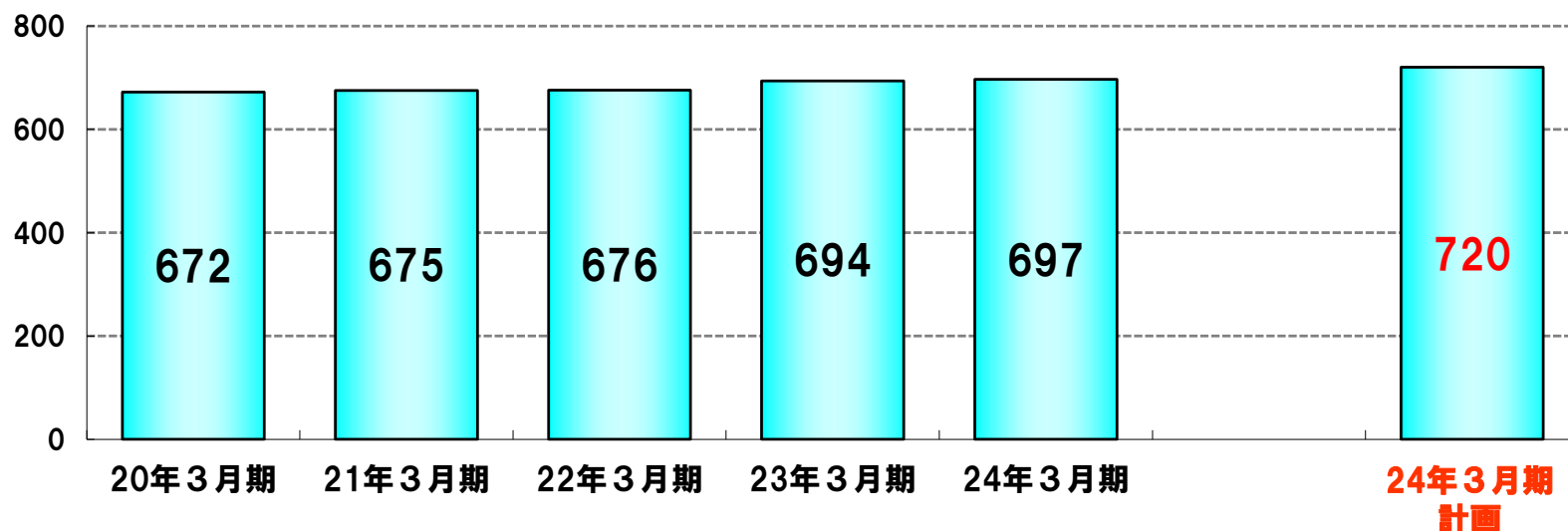


販売費及び一般管理費

■売上高販管费率（％）

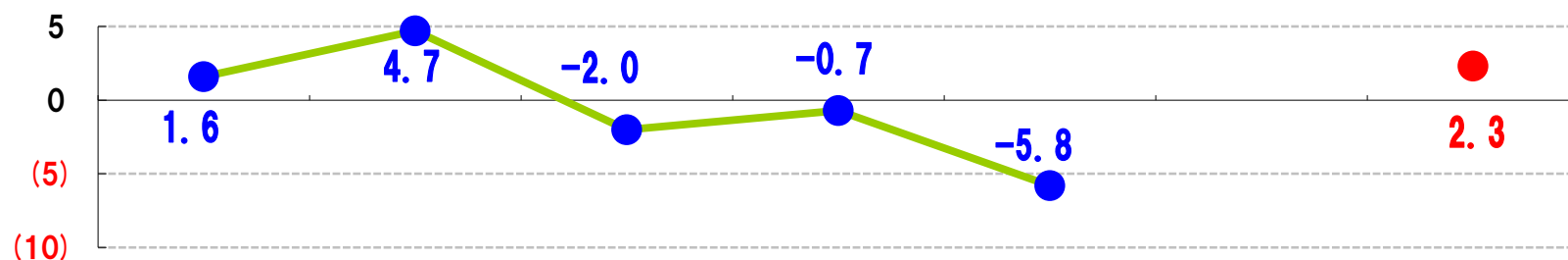


■販売費及び一般管理費（百万円）

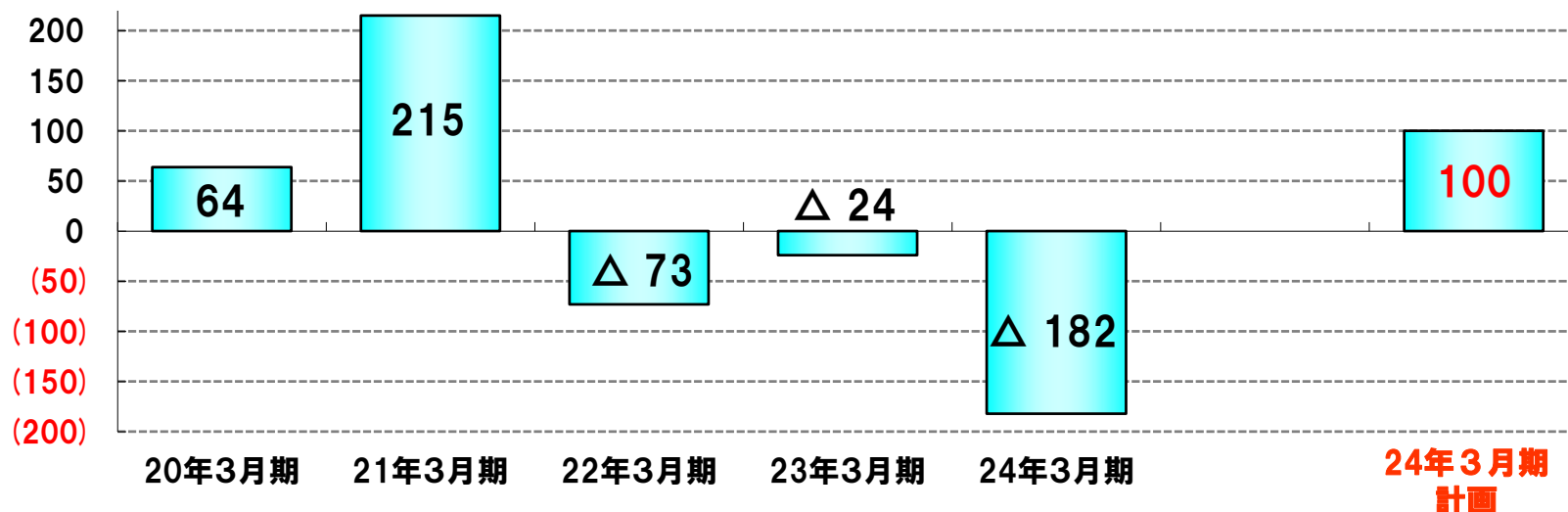


営業損益

■売上高営業利益率（％）

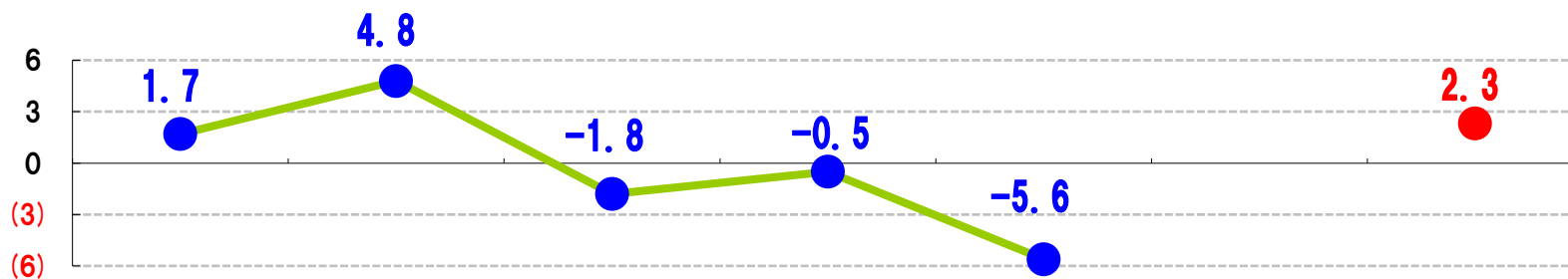


■営業利益（百万円）

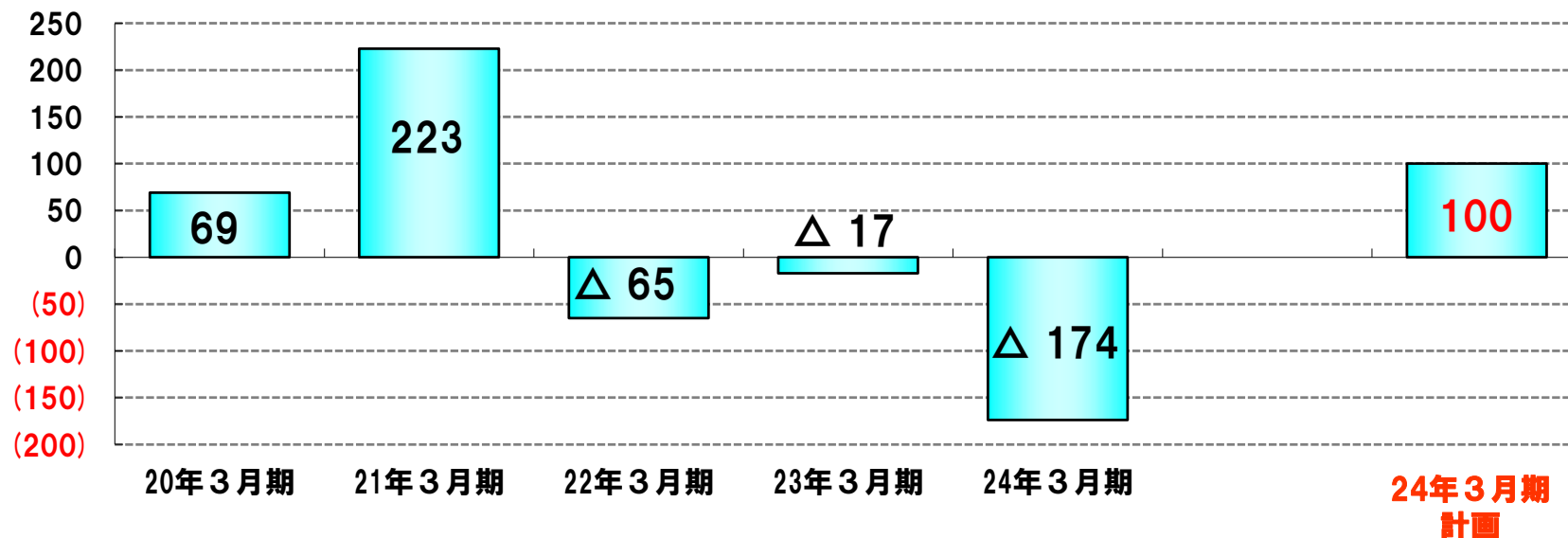


経常損益

■売上高経常利益率（％）

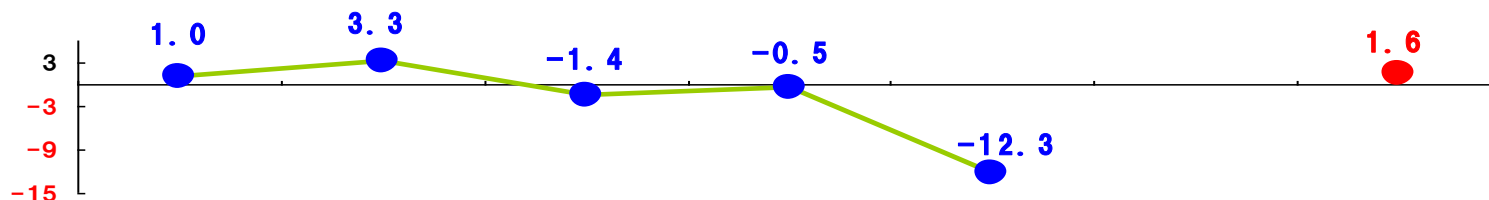


■経常利益（百万円）

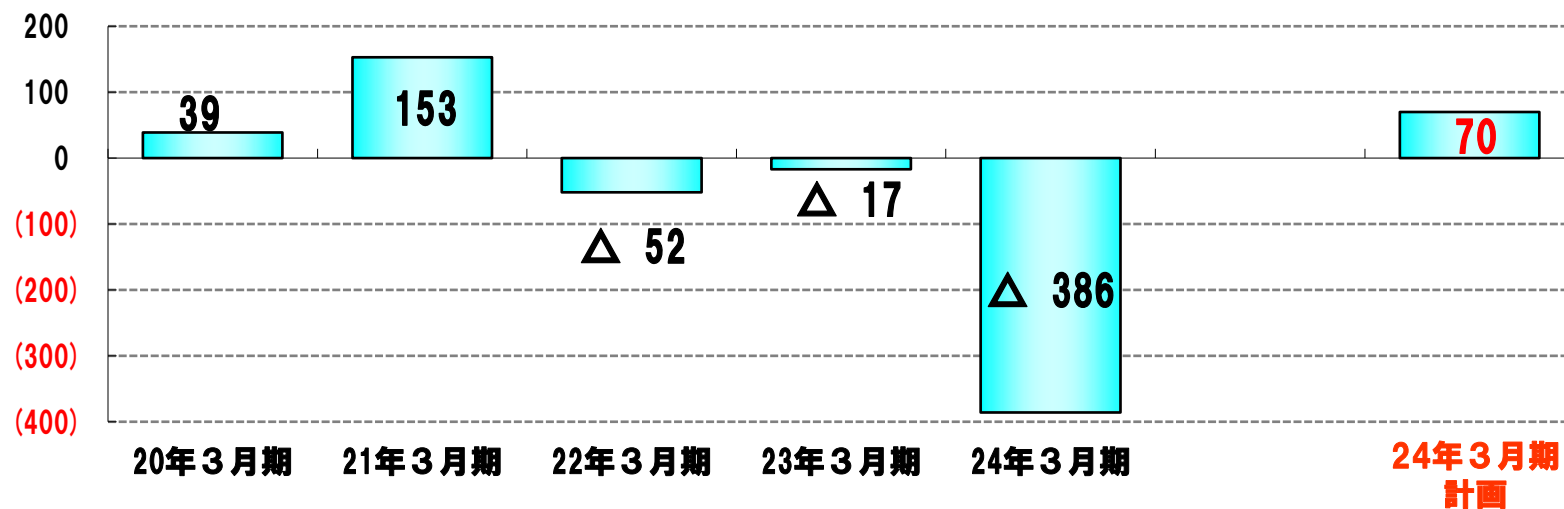


当期純損益

■売上高当期純利益率（％）



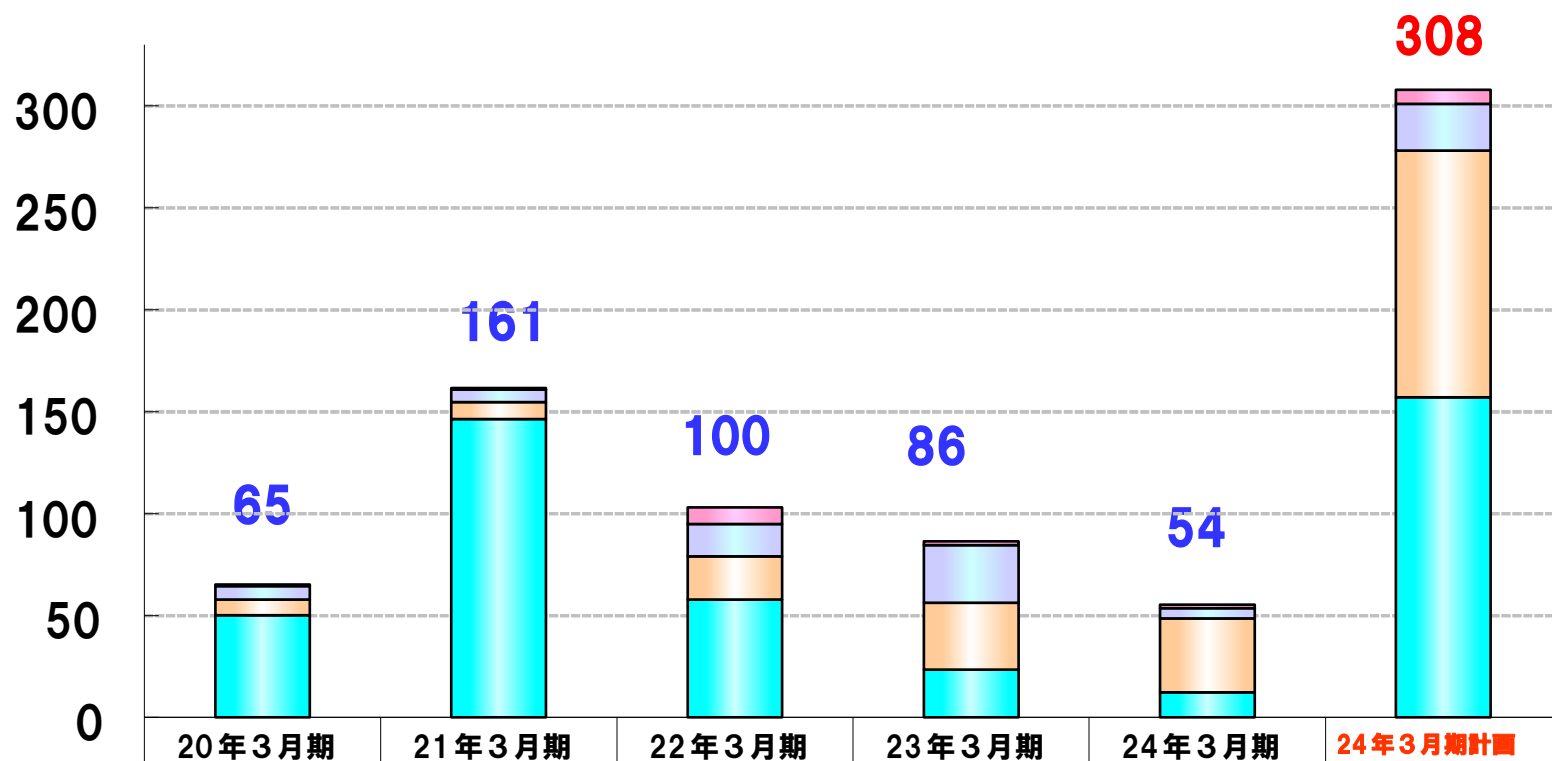
■当期純利益（百万円）



ROE	3.0	10.8	—	—	—
-----	-----	------	---	---	---

設備投資

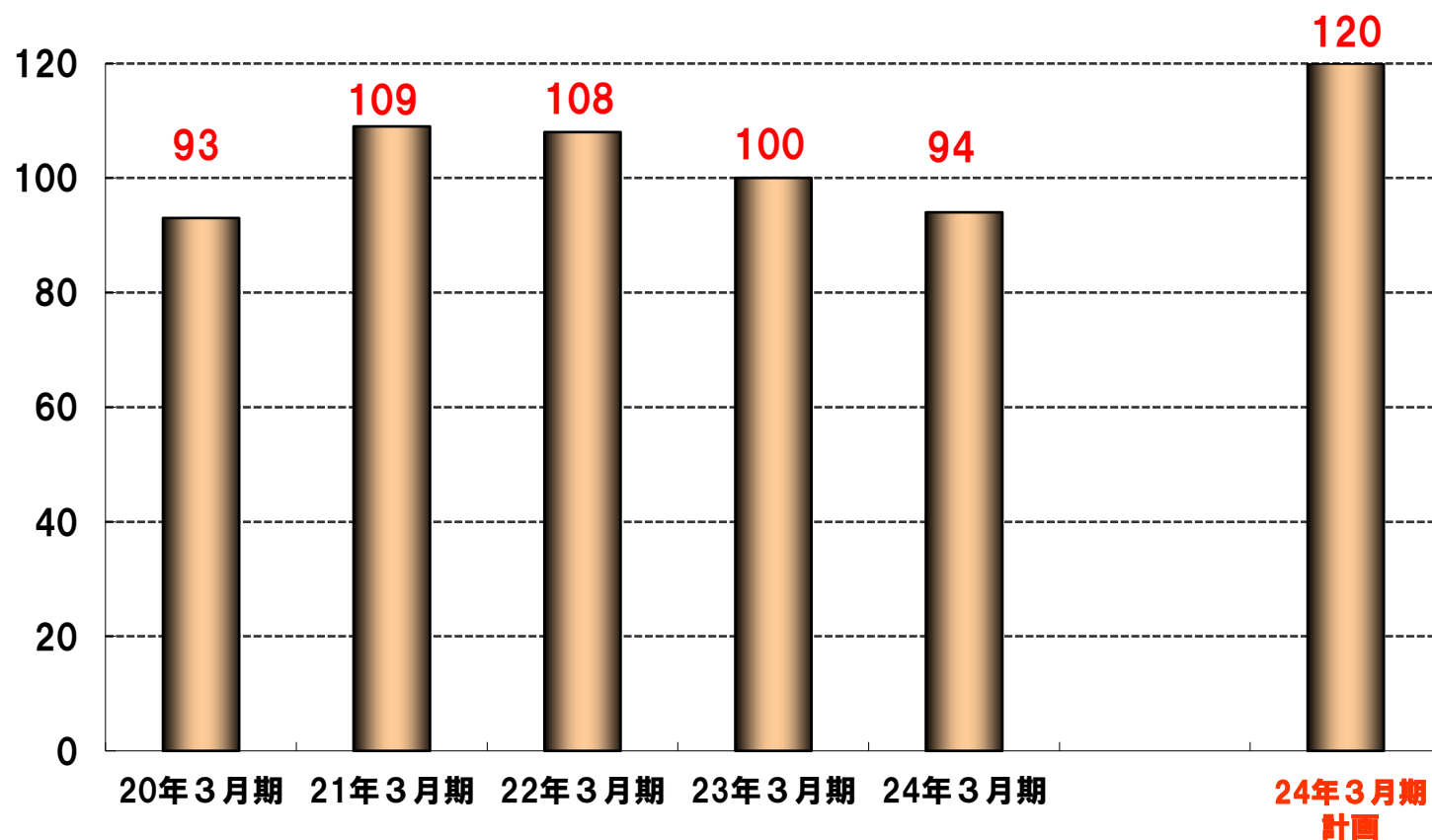
(百万円)



- 環境対策
- 合理化・省力化
- 更新・維持・補修
- 能力増強

減価償却費

(百万円)



貸借対照表

(単位：百万円)

期 別 科 目	2020年3月末	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末	2024年3月末
流動資産	1,787	1,889	1,626	1,445	1,561
(売掛債権)	(1,189)	(1,129)	(792)	(549)	(733)
固定資産	1,625	1,657	1,674	1,656	1,418
総 資 産	3,413	3,546	3,300	3,102	2,980
流動負債	1,436	1,337	1,111	945	970
固定負債	622	713	778	761	1,023
純資産	1,354	1,496	1,411	1,395	986
負債・純資産	3,413	3,546	3,300	3,102	2,980
(自己資本比率)	(39.7%)	(42.2%)	(42.8%)	(45.0%)	(33.1%)

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

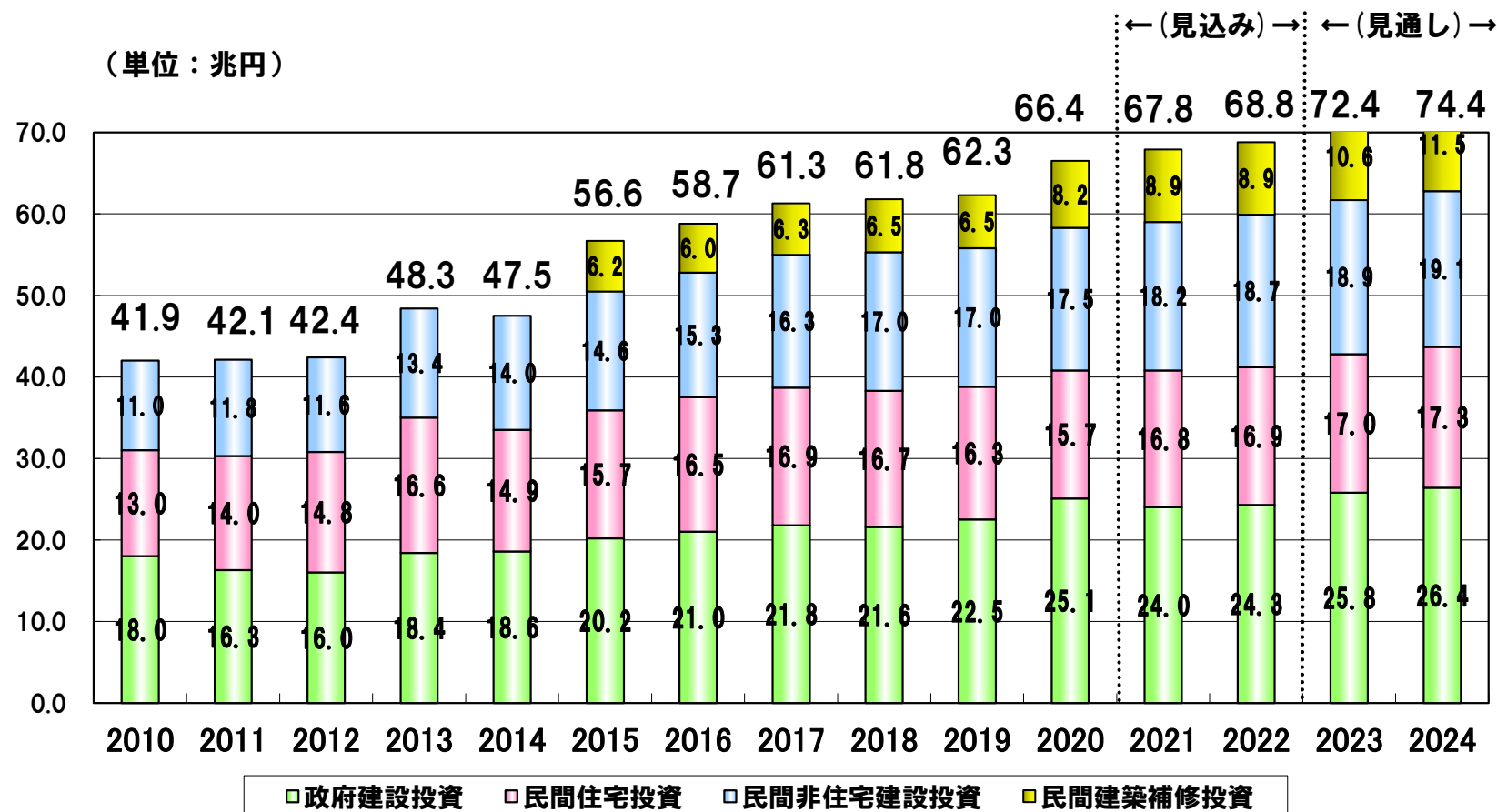
	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	11	210	186	232	△246
投資活動による キャッシュ・フロー	△136	△51	△105	△119	△82
財務活動による キャッシュ・フロー	△85	△4	△13	△44	243
現金及び現金同等物の 増加・減少(△)額	△211	154	67	68	△85
現金及び現金同等物の 期首残高	719	508	663	730	798
現金及び現金同等物 期末残高	508	663	730	798	712



市場動向

市場環境～建設投資（名目値）見通し

2024年度の建設投資額予測は約74.4兆円であり、前年度比較で2.8%増と微増ながら積極的インフラ投資は継続見込み。



参考：（財）建設経済研究所
建設経済モデルによる建設投資
2024年4月10日発表より

建設分野のトピックス

国土交通省では2021年度に発表された「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム」の直轄国道76事業の見通しと共に、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を基にした7つの取り組みに関する事業を公表しており、今年度は4年目となりさらに事業は加速していくものと想定される。

7つの取り組み

- ①災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築
- ②道路の老朽化対策
- ③河川隣接構造物の流失防止対策
- ④高架区間などの浸水避難場所としての活用
- ⑤道路法面・盛土による土砂災害防止対策
- ⑥無電柱化の推進
- ⑦ITを活用した道路管理体制の強化



これらの施策は、当社の事業収益の柱となる工法に寄与する内容が盛り込まれており、今後中長期的な仕事量を確保する後押しとなることが期待される。

例えば、「①災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築」については、5か年加速化対策により、高規格道路のミッシングリンク対象約200区間のうち約3割で全線または一部区間を2025年度までに開通することなどを達成目標に掲げている。

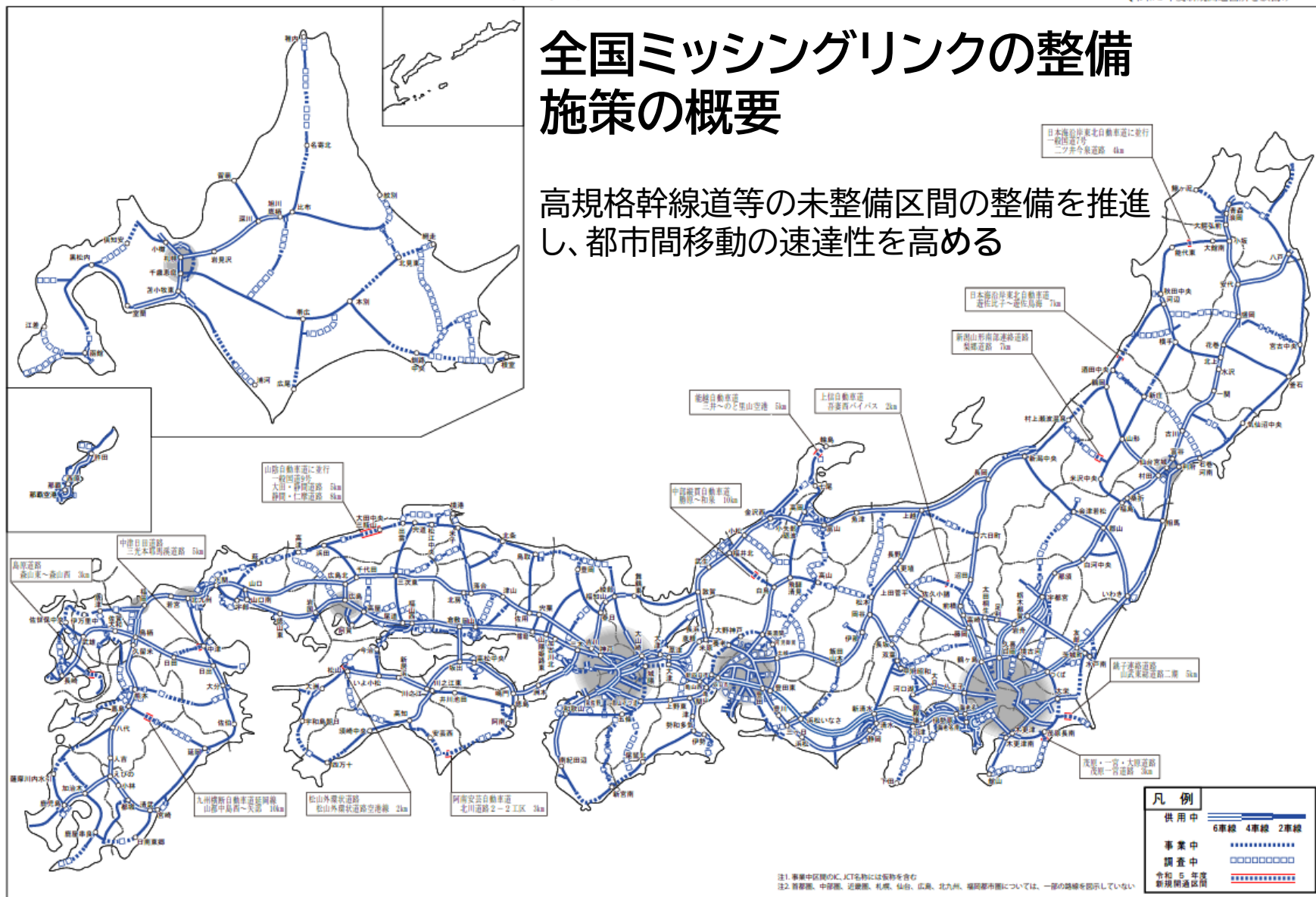
また、経済産業省より「デジタルライフライン全国総合整備計画」が公表され、令和6年度、新東名高速道路に距離100キロ以上の自動運転車用レーンを設け運送業の人手不足解消を支援する計画が明らかになり、さらに全国へ広げることが見込まれる。

高規格道路ネットワーク図

(令和4年度末時点のネットワーク図に、
令和5年度新規開通箇所を旗揚げ)

全国ミッシングリンクの整備 施策の概要

高規格幹線道等の未整備区間の整備を推進し、都市間移動の速達性を高める



4車線化候補箇所

別紙3

優先整備区間
(約880km)

■高規格幹線道路(約14,000km)の整備状況(R5.4.1時点)

供用区間(約12,200km)

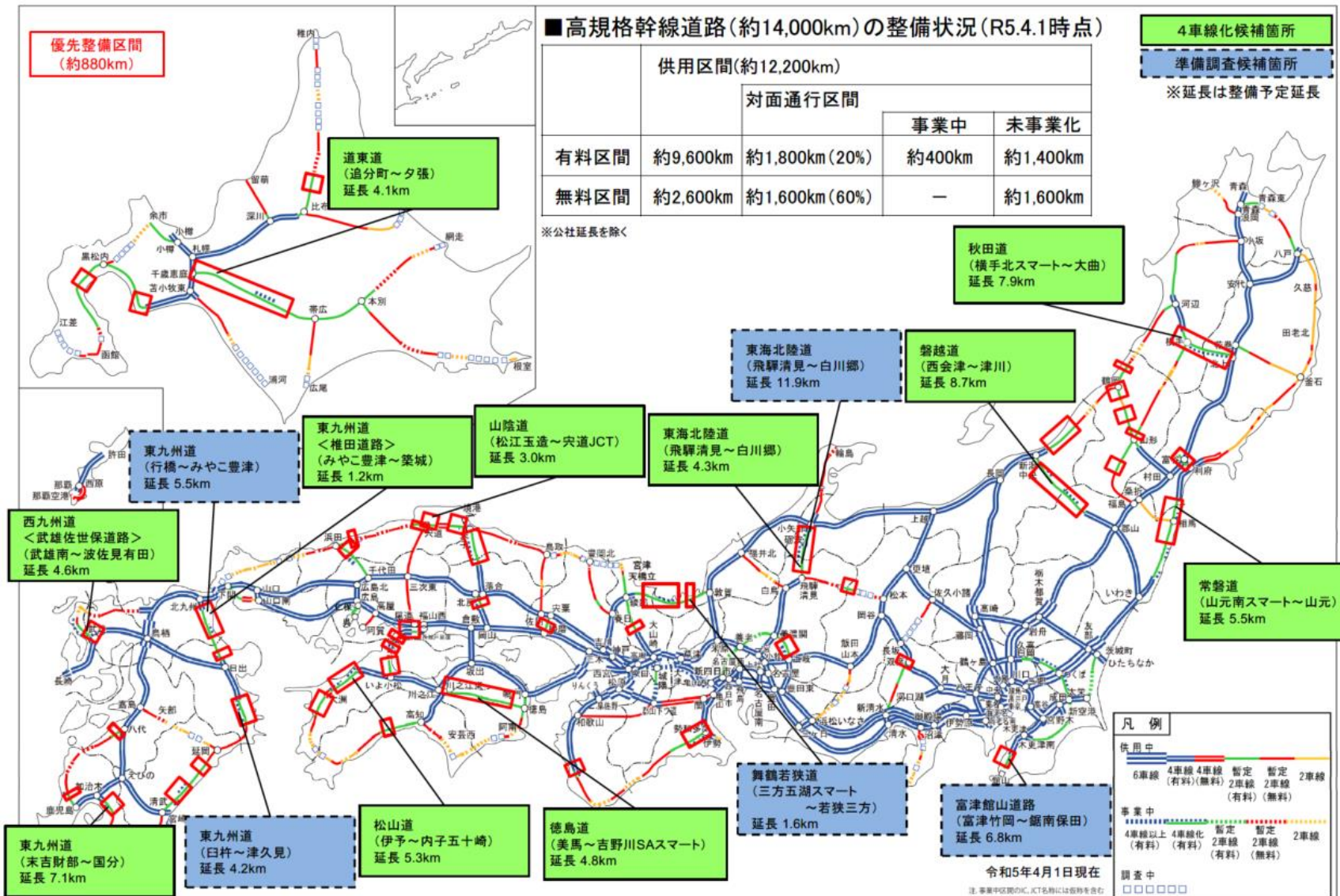
		対面通行区間	事業中		未事業化
			事業中	未事業化	
有料区間	約9,600km	約1,800km(20%)	約400km	約1,400km	
無料区間	約2,600km	約1,600km(60%)	—	約1,600km	

※公社延長を除く

4車線化候補箇所

準備調査候補箇所

※延長は整備予定延長



令和6年能登半島地震 能登半島 道路の緊急復旧の状況 令和6年1月15日(月) 7:00時点

国土交通省 道路局

○日本海側へ9ルートを確認し、緊急復旧を加速。国道249号等半島内の主要な幹線道路の約9割で緊急復旧完了

・緊急復旧の進捗率

	1/7 7時	現在
半島内の 主要な幹線道路	約6割 ⇒	約9割
うち国道249号 沿岸部※1	約2割 ⇒	約7割
沿岸部への到達 ※2	6方向 ⇒	9方向

※1: 輪島市門前町～珠洲市役所
※2: 内陸側・海側の両方

・孤立地区数の推移

1月5日8時	33地区
1月14日16時	15地区

※内閣府防災資料より



県道38号緊急復旧完了状況



国道249号中屋トンネル崩落状況



今後道路被災箇所の本復旧工事が急がれる

国土交通省ホームページ資料引用

インフラ老朽化対策が急務

建設後50年を経過する社会資本の割合

	2018年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋 [約73万橋（橋長2m以上の橋）]	約25%	約39%	約63%
トンネル [約1万1千本]	約20%	約27%	約42%
下水道管きょ [総延長：約47万km]	約4%	約8%	約21%

北海道

道東自動車道 軽量盛土

トンネル老朽化対策

液状化対策、地盤補強

北海道新幹線

東北

東北中央自動車道 軽量盛土

津軽自動車道 軽量盛土

トンネル老朽化対策

高速道路ミッシングリンク解消



関東

新東名高速道路 軽量盛土

東京都水道局 導水管、送水管整備計画

シールド工事

高速道路ミッシングリンク解消

民間プロジェクト

リニア中央新幹線関連 仮設道路、地盤改良

ライフライン整備（ガスパイプライン）など



中部

新潟

富山

石川

福井

山梨

長野

岐阜

静岡

愛知

中部

リニア中央新幹線関連 仮設道路、地盤改良

新東名高速道路 自動運転車用レーン付加

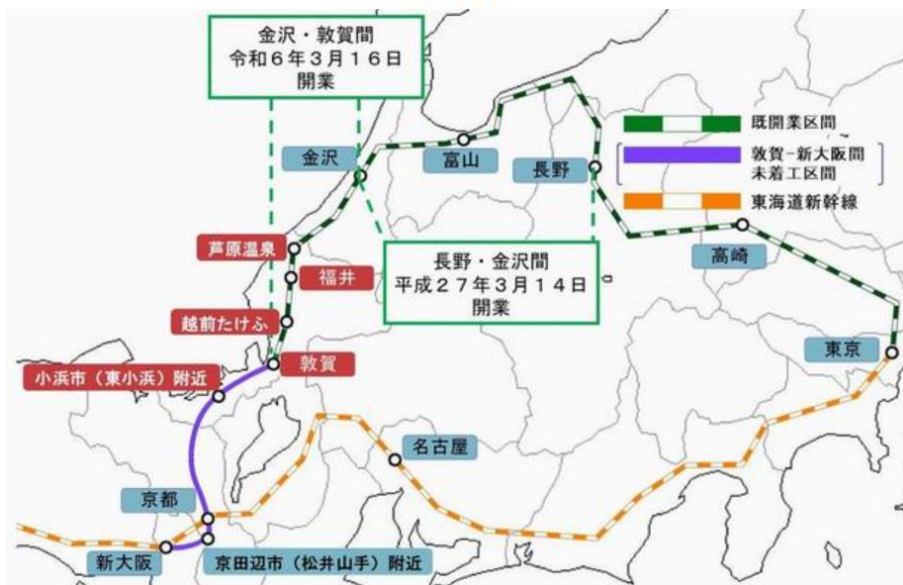
高速道路ミッシングリンク解消

水資源、農水関連事業（導水トンネル改修）

北陸新幹線「敦賀－新大阪延伸」

能登半島地震 本復旧、高規格道路新設





北陸新幹線「敦賀一新大阪延伸」

新名神高速道路

大阪モノレール HYSC工法

高速道路ミッシングリンク解消



国道バイパス関連 軽量盛土



中国・四国

インフラ老朽化対策

ガスパイプライン

高速道路ミッシングリンク解消

(山陰自動車道、

四国横断自動車道)

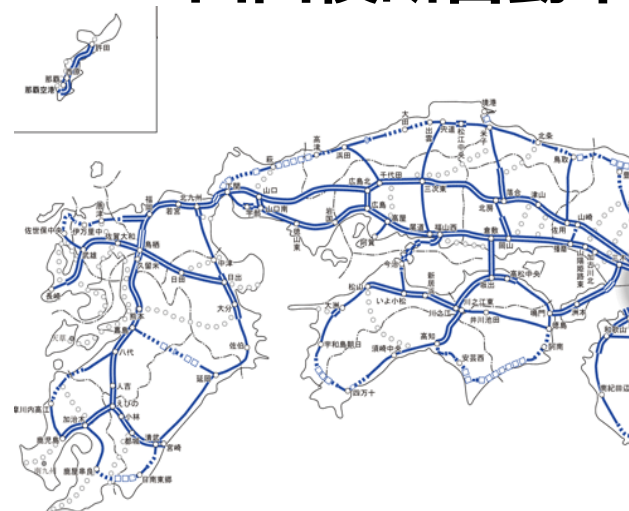
九州・沖縄

熊本震災・洪水復旧関連

電力会社設備更新

高速道路ミッシングリンク解消

(東九州自動車道)





II. 2025年3月期 業績予想

2025年3月期業績予想

(単位：百万円)

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (予想)
受注高	3,393	4,310
売上高	3,139	4,650
売上総利益	514	880
販管費	697	750
営業損益	△182	130
経常損益	△174	131
当期純損益	△386	90

工事別受注高予想

(単位：百万円)

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (予想)
気泡コンクリート工事	2,680	3,150
地盤改良工事	712	1,160
その他工事	0	0
計	3,393	4,310

売上高予想

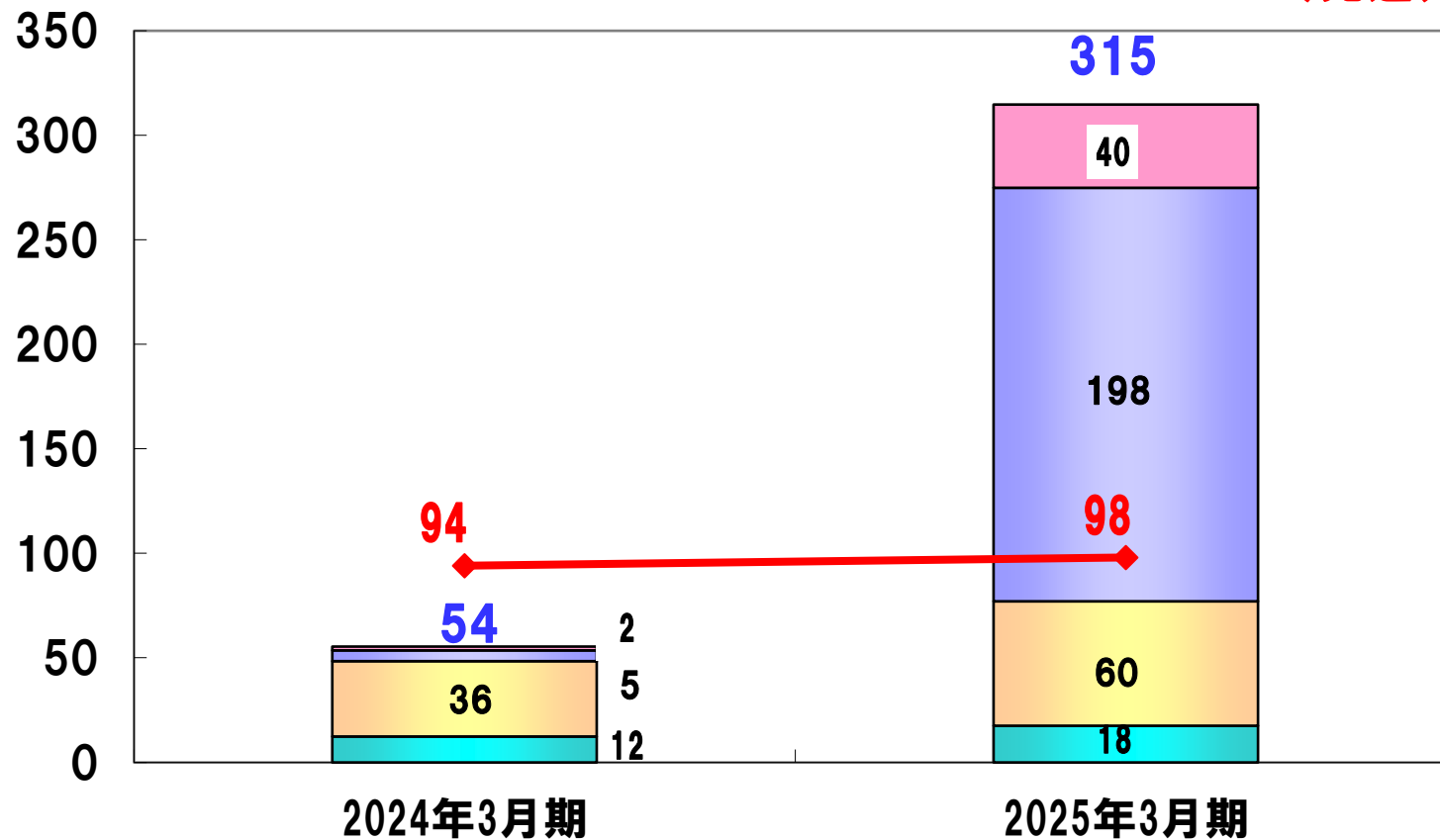
(単位：百万円)

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (予想)
気泡コンクリート工事	2,277	3,365
地盤改良工事	839	1,240
その他工事	0	0
商品販売	23	45
計	3,139	4,650

設備投資と減価償却費

(百万円)

(見込)



■能力増強 ■更新・維持・補修 ■合理化・省力化 ■環境対策 ◆減価償却費



経営方針について

- 技術開発活動の強化による市場創造

「いいもの」を提供し続ける技術の深化、技術革新

- 営業力強化による需要創造と案件情報収集力の強化

コンサルを中心とした上流営業の推進

(当社工法・材料の提案・スペック活動の強化)

地盤改良工事の事業戦略の再検討

- 施工力の強化

人材の確保・育成に注力

(職場環境の改善への取組み、人手不足への対応)

- 業務効率化による働き方改革の推進

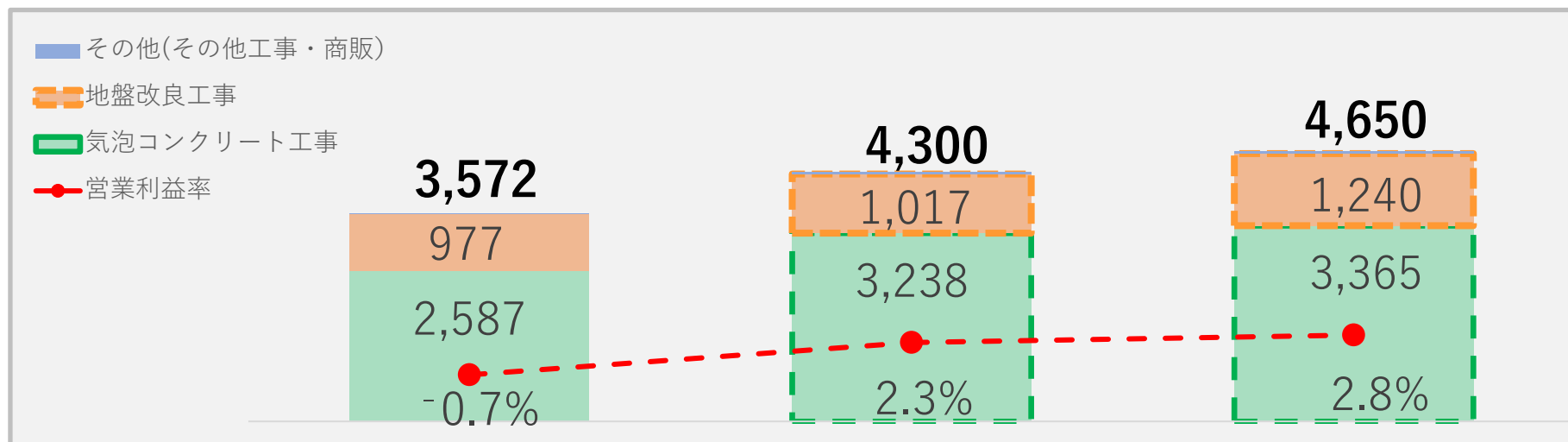
多能工化の推進

業務のシステム化、現場のICT化



中期経営計画について

数値計画



(単位:百万円)	2023年3月期(実績)		※2024年3月期(計画)		※2025年3月期(計画)	
売上高	3,572		4,300		4,650	
気泡コンクリート工事	2,578	(72.2%)	3,238	(75.3%)	3,365	(72.4%)
地盤改良工事	972	(27.2%)	1,017	(23.7%)	1,240	(26.7%)
その他	22	(0.6%)	45	(1.0%)	45	(0.9%)
営業利益	-25	(-0.7%)	100	(2.3%)	130	(2.8%)
当期純利益	-18	(-0.5%)	70	(1.6%)	90	(1.9%)

※2023年5月12日開示の見直し計画

本資料に関するご注意

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報に基づき作成したもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は様々な要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることもありえます。
